

菊地正幸教授記念シンポジウム

- 次世代の地震学に期待すること -

2004 年 11 月 1 日 (月) ・ 2 日 (火)

東京大学弥生講堂一条ホール

平成16年度東京大学地震研究所共同利用・研究集会(2004-W-03)、
東京大学 21 世紀 COE プログラム共催

東京大学地震研究所共同利用研究集会 / 東京大学 21 世紀 COE プログラム共催
菊地正幸教授記念シンポジウム - 次世代の地震学に期待すること

平成 15 年 10 月に逝去されました故菊地正幸教授は地震学の様々な分野に重要な貢献をされました。このシンポジウムは特に故人が関心を持っていた分野について、これまでの研究をレビューしながら今後の展望を議論するという目的で企画しました。レビューもそれを前提として将来の話をするため、シンポジウムの基調はあくまで未来志向です。そのため、それぞれの講演にはまだ萌芽的な内容、不確実な議論も含まれるかもしれません。それらの不確実性から次世代の研究にとって重要な鍵が生まれることを願います。

タイトルに「地震学」という言葉を用いることには若干の違和感があります。このシンポジウムは地震学の教科書が扱う全内容をカバーするものではありません。一方菊地先生以前には必ずしも地震学に含まれなかった内容も含んでいます。すなわちタイトルの指し示すところは菊地地震学とその周辺、大別すれば「震源過程」「強震動予測」「情報発信」ということになります。これらは近いようですが現実的には横断的な研究は簡単ではありません。レビューによりお互いの問題を再認識し今後の展望を共有することが今後の横断的研究のきっかけとなれば幸いです。また、常に後進の研究者を暖かく応援して下さった菊地先生にちなむシンポジウムとして、地震学を志して日の浅い研究者・学生の道標となればこの上ないことです。

菊地先生がご存命であれば御名前を冠したシンポジウムの開催を簡単には許してくれなかったことでしょう。それでも内容からしてこれは菊地地震学の将来を語るシンポジウムであり、その為に御名前を使わせていただくことに反対はされないだろうと実行委員会で勝手に判断して開催に至りました。副題としても大げさになりすぎず、菊地先生が笑って了解してくれるようなものとして考えた結果が「次世代の地震学に期待すること」です。果たして先生はどう反応されたでしょうか。

本シンポジウムは、平成 16 年度東京大学地震研究所共同利用・研究集会(2004-W-03)、東京大学 21 世紀 COE プログラム、地震予知事業費(震源過程と強震動)によって実施しました。

平成 16 年 11 月 1 日

菊地教授記念シンポジウム実行委員会

東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻 井出 哲

東京大学地震研究所 土井恵治

東京大学地震研究所 山中佳子

東北大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター

松澤 暢

菊地正幸教授記念シンポジウム

- 次世代の地震学に期待すること -

日時：2004 年 11 月 1 日（月）13:00 - 17:00 / 2 日（火） 9:20 - 16:30

会場：東京大学弥生講堂一条ホール

プログラム

11 月 1 日

開会挨拶 13:00-13:10

山下輝夫（地震研究所所長）

基調講演 13:10-17:00

From Crack Propagation to Earthquake Early Warning

金森博雄（カリフォルニア工科大学）

Large Interplate Thrust and In-slab Normal-Faulting Earthquakes in the Mexican Subduction Zone, and Their Possible Stress Diffusion and Interactions

三雲健（メキシコ国立自治大学）

特性化震源モデルによる強震動予測

岩田知孝（京都大学防災研究所）

高密度強震計ネットワークからわかったこと

翠川三郎（東工大大学院総合理工学研究科）

これから何が面白い？

藤井直之（名古屋大大学院環境学研究科）

11 月 2 日

講演 9:20-16:30

亀裂伝播の理論的研究と地震学

亀伸樹（九州大学大学院理学院）

地震の動的破壊過程と破壊エネルギーのスケール依存性

井出哲（東京大学理学系研究科）

小さなアスペリティの破壊が教えてくれること：地震発生予測の高度化に向けて

松澤暢（東北大学大学院理学院研究科）

関東のサイスモテクトニクス再考：“常識”を疑ってみる

遠田晋次（産総研 活断層研究センター）

海溝型地震の発生履歴と長期予測

佐竹健治（産総研 活断層研究センター）

測地学的固着域 vs. アスペリティマップ：地震像のより正確な予測へ向けて

鷺谷威（名古屋大学大学院環境学研究科）

地震時すべりと非地震性すべりの相補関係

八木勇治（建築研究所国際地震工学センター）

海底で地震を眺めると

日野亮太（東北大学大学院理学院研究科）

重力波地震学で探るブラックホールの破壊過程

勝俣啓（北海道大学大学院理学院研究科）

内陸の不均質構造と地震発生

飯尾能久（京都大学防災研究所）

強震波形解析から見た震源の階層構造

三宅弘恵（東京大学地震研究所）

関東の被害地震と強震動：大規模数値シミュレーションによる未来の地震被害予測と過去の地震メカニズムの解明

古村孝志（東京大学地震研究所）

大規模強震観測網 - 現状と未来展望 -

功刀卓（防災科学技術研究所）

リアルタイム地象学 - 社会は基礎科学を必要とす -

束田進也（気象庁地震火山部）

即時地震情報を防災にいかす

林能成（名古屋大学災害対策室）

理学的探求と社会的活用のはざままで思うこと

武村雅之（鹿島建設小堀研究室）